

## (幕別町) 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ (第1回) 議事メモ

コーディネーター	伊藤 伸
説明担当者 (自治体)	石野郁也、甲谷英司、日下部孝彦
日時	2018年12月22日 (土) 14時00分から16時05分まで
場所	幕別町札内コミュニティプラザ (幕別町札内青葉町311-11)
その他	参加者数 (町民) 7名、(短大) 2名、(オブザーバー) 4名 欠席者数 (町民) 4名、(オブザーバー) 1名 傍聴者数 (町民) 4名、(町外) 2名、(報道) 3名

### 趣旨・概要

第1回目は、ワークショップの概要と町で行っているオリンピックの町創生事業と町民の意識の現状を知ってもらうことを目的とした。

- (1) 町内に在住して何年経過したか。
- (2) なぜワークショップに参加しようと思ったか。
- (3) 町内出身のオリンピック選手が多いことについて一言

を各委員から発表してもらい、その発表を受けて、オブザーバーからの意見を聴取した。

### 挨拶・ワークショップの概要

#### 教育長

町では、「オリンピックの町」として、更なる認知度の向上とスポーツを核としたまちづくりを推進するため、今年度から「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を展開している。

今回のワークショップは、町民の皆さんがスポーツに関わり、「オリンピックの町」として誇れる町にするために、何が必要なのか、どんなことをすればいいのかななどを、皆さんと一緒に考えていくものである。

#### コーディネーター

日本では多くの方が「政治は他人事 (政治家や公務員に任せっぱなし)」となっている現状で、任せられた方は自分の都合で、政治や行政を回している傾向にある。このことから、政治や行政を「自分ごと化」していくことが必要である。

今までの行政への参加は、公募や推薦で行われることが多かったが、このワークショップでは、無作為抽出した町民に案内を送付して、その中の希望者が議論に参加する形式を採用した。この特徴として、行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範囲な町民の参加が望めるとともに、公募に比べて、「女性」、「若者」の参加比率が高い。

このワークショップでは、テーマである「オリンピックによるまちづくり」に関して、具体的な課題を洗い出し、その課題を解決していくために「行政の役割」、「個人の役割」、「地域の役割」を「住民同士」で議論を進めていきたい。

## 全体説明（オリンピックの町創生）

### 教育委員会

町出身の現役オリンピック選手が5人輩出しているが、過去を含めると8人となる。近年、オリンピック選手だけではなく、プロスポーツ選手を輩出し、今後のオリンピック選手として期待される方が複数いる。

町は、発祥のスポーツである「パークゴルフ」を筆頭に、各地区にスポーツ施設が設置されている。スポーツ少年団の活動も会員数1,018人となっており、複数のスポーツを掛け持っている人もいるが、小学生4人のうち3人は加入している割合である。

なぜ幕別町からオリンピック選手が5人輩出しているのかと町出身の現役オリンピック選手が答えたヒントをきっかけに、町では様々な取組を行ってきた。

しかし、町民の意識は次のとおりであるが、行政が考えていることと町民との意識にギャップがある。

- ・スポーツに興味がない子どもの中に、スポーツをやってみたいと思っている子どももいる。
- ・子どもよりも大人の方がスポーツに興味を持っているが、大人はスポーツをやってみたくはない人が多い。
- ・子どもは町出身で活躍しているスポーツ選手を意外と知らない。
- ・運動と健康の意識は高いが、運動・スポーツといった行動にはなかなか結び付いていない。
- ・スポーツ環境に不満を持っている人は4人に1人。その理由は情報が不足していること。

## ワークショップ（自己紹介等）

コ) 各委員から自己紹介に合わせて、次のことを話してください。

- (1) 町内に在住して何年経過したか。
- (2) なぜワークショップに参加しようと思ったか。
- (3) 町内出身のオリンピック選手が多いことについて一言

メ①) 在住して16年。ワークショップに興味があり、参加した。高木姉妹がメダル獲得したことは、町民として誇れることである。高木姉妹以外の知名度が低いことにびっくりした。

メ②) 在住して4～5年。スポーツに全く興味がなかったが、これを機にスポーツを勉強しようと思い、参加した。高木姉妹以外は知らなかった。スポーツに興味があ

たので、そんなにすごいことなのかと感じている。これを機に勉強して、外に情報を発信できるようにしたい。

- メ③) 出産を機に在住。幕別は子どもにやさしく、行政サービスが充実していることから、幕別に在住することを決めた。小学生の子どもが2人いるが、自分も含めてスポーツに興味がない。このワークショップを通じて、行政に意見を伝えて、お役に立てればと思う。高木姉妹以外知らないし、興味がなかった。町外の人から幕別はスポーツの町と言われたが、違和感があった。
- メ④) 在住して7年。スポーツインストラクターをやっている。幕別は環境が良かったから選んだ。何よりもオリンピックが育つスポーツ環境が良い。しかし、情報が浸透していない。例えば、コミセンの予約の仕方は一部の人しか知らない。スポーツやオリンピックに関わる情報をシェアしあえて、町民がスポーツの情報がわかるような環境であればよい。
- メ⑤) 在住して18年。結婚を機に在住。23年間現場で教員を務め、人事異動で4月から市教育委員会へ異動した。日頃から現場と行政のギャップを感じていたため、このようなワークショップに興味を持った。娘が幼少期、本が好きであったが、小学生入学後、スポーツクラブに入団し、スポーツに夢中となった。このワークショップを通じて、色んな人と話をしていく中で、今後、幕別町にどのようになっていくのかなと考えていきたい。また、現在5人現役オリンピックがいるが、たまたまではあり、これに踊らされてはダメだと思う。目指すところはオリンピックを出すことが目的なのか、またこの5人のオリンピックがいるチャンスをどのように生かしていくのかを期待している。
- メ⑥) 在住は通算40数年であり、元々は幕別本町に在住し、現在札内に在住している。学習塾の講師を行っており、勤務は音更町である。普段から子どもと接して感じることは、幕別はスポーツ熱が高いが音更はそれほどでもない。そのため、幕別の学力が心配である。職業柄、勉強も頑張っしてほしいという願望はある。大事にして、スポーツも勉強も身につけて、いわゆる文武両道となっしてほしい。私の世代では、篠原選手の出場が話題になったことは覚えている。今はスケート選手のみならず、他の種目でオリンピックに出場しているので、幅広い種目に出場することは素晴らしいことだと思う。
- メ⑦) 転勤族だったので、幕別には15年在住。昭和50年頃、大樹町のミニバレーを普及するため、小島さん（ミニバレー発案者・現会長）と一緒に動いていた。また、中長距離の陸上もやっていた。そのため、スポーツに興味を持っていた。昔は野球が好きでやっていたが、実家が農家であったため、親のいうことを聞かなくてはならず、思うようにスポーツはできなかった。70歳になって、シニアソフトボール大会で札幌に行ったこともある。子どもには好きなことをしなさいと言っているが、スポーツに興味がない。今回、無作為抽出による参加者を集める方法は今までに例がなか

ったので、どんな意見が出るのか興味がある。自分は、現在、しらかば大学（高齢者学級）に所属しているので、人間関係を構築するうえで、このワークショップで視野を広げることができるかなと思っている。

短①) 出身は更別村であるため、高校生の時に、通学で忠類には何度も通っている。今回、大学の先生の勧めでワークショップに参加した。将来、保育士を目指しているので、自ら考える力、視野を広げることがこのワークショップを通じて身につけていきたい。小学生の頃、スケートをやっていたが、幕別は速い選手が多いという印象がある。

短②) 転勤族であるため、今日初めて幕別町に来た。幕別町は高木姉妹のイメージが強く、スピードスケートが強いイメージがある。弓道を行っているが、十勝管内の大会では足寄と幕別には苦しめられていた。このワークショップを通じて、行政や社会に関わってみたいし、行政の視野を広げていきたい。大学に入ってからスポーツに関心はなかったが、高木姉妹をきっかけにスピードスケートに興味を持ちました。帯広市に住んでいるが、同じ十勝の住民として誇らしく思う。

コ) 各参加者からの発表を受けて、オブザーバーから意見や感想を話してください。

オ①) スポーツに興味を持っていない人も多い状況の中、スポーツにおける行政としての考え方を見直す時期に来ているのでは思う。高木姉妹のイベントを行ったとしても、知らない人がいることを思うと、立場としてもう少し町民と話せる場が必要だったのかなと感じる。

オ②) このワークショップの印象は、まず女性が多いこと。今までの行政委員は、推薦や充て職が多く、形骸化してしまう弊害があるので、このような無作為抽出による方式である同じ町民という立場で参加していきたい。子どもはスケートや陸上盛んにやっているが、大人になるとスポーツに離れてしまう傾向にある。オリンピックが多いことについて、幕別には各種目に素晴らしい指導者がいることを一つ付け加えたい。

オ③) 小さな頃から幕別はパークゴルフ（スポーツ）を核として行ってきた成果が今になって現れていると思う。また、オリンピック選手のコメントにあるとおり、強い体づくりがあるのも食もその一つにある。そして、幕別には応援してくれる人が多く、最近であれば、小学校全体で応援してくれたことはすごいと感じる。先ほど参加者から話があったように、オリンピック選手5人輩出されたのは、宝くじにも当たったぐらい大きなチャンスであり、そのチャンスを生かして、今後どのように進めていくか楽しみにしている。

オ④) 大学生の息子がいるが、息子がバスケットをするまで、スポーツに興味はなかった。しかし、息子がバスケットをやっているのを機に、自分の意識が変わった。スポーツは周りを喜ばせることができるものだと感じている。普段の部活では、週末も練習をしていることもあるが、トップアスリートだとさらに練習も多く、休みもなか

ったと思う。メディアとしてこのように頑張っている人を発信して、十勝はスポーツをするのに環境が整っていることを十勝管内外にも伝えなければならないと思う。初めてスポーツでの幕別の仕事は、高木美帆選手の壮行会であったが、その際の父親としての心境はうれしい反面、正直、遠征等でかかる費用が大変だったと話されていた。同じ親の立場として、何か協力できることはないかと思う。普段メディアにいたので、情報がたくさん入っているが、このような参加者やアンケート結果にもあるとおり、情報が行き届いていないという現実を知ることができた。

#### 次回に向けた準備

- コ) 競技スポーツ（アスリートを目指す）を狙いに置くのか、生涯スポーツを狙いに置くのかによって、まちづくりの考え方は変わっていくと思うが、次回の会議につなげるために、事務局はどのように感じていますか。
- 事) 子どもで考えると、将来のアスリートを目指すための取組を行っているし、一生涯健康でいられるために生涯スポーツの取組を行っているのもあるが、全国大会を出場する人を増やす目的ではなく、スポーツを通じて町民が健康にいられることを目的としている。

#### 次回の目標

- 次回は子どものスポーツを支えるにはどうしたらよいかについて重点的に話をしたい。部活やスポーツクラブの送迎は保護者が行っていることが多く、それが負担になっているという話もあるので、その点も次回話が上がればと思う。
- 3回目は、大人のスポーツを中心に議論をしたい。日々、どのようにして運動できる習慣が作れるかを中心に話していきたい。
- スポーツ施設に行ったことがないという人もいるので、次回までにできれば雰囲気を知るためにぜひスポーツ施設に行っていただければと思う。

#### 次回に向け準備する資料等

- 全国と幕別の学力テストの比較
- スポーツ施設の利用実績